



発掘調査の様子（人が立っているところが正殿の柱跡）

ふるさと歴史館第36回 企画展

常陸国府跡

土に埋まる古代県庁の跡

場 所：ふるさと歴史館（石岡市総社1-2-10 石岡小学校敷地内）

開催期間：令和6年4月10日（水）～令和6年7月7日（日）

開館時間：10：00～16：30

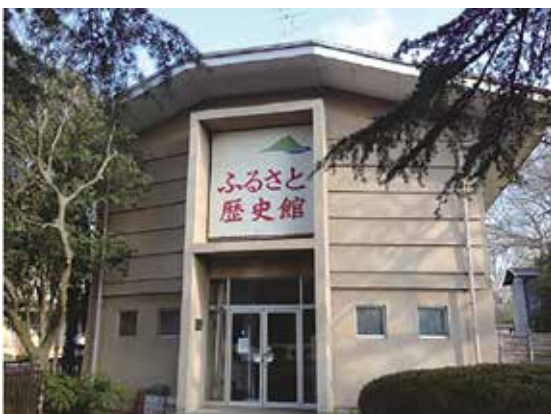
休 館 日：毎週月曜（ただし、月曜が祝祭日のときはその翌日）

大化の改新直後、中央政府はすぐさま東国へ使者を遣わし、那賀国や茨城国といった国々をまとめ常陸国を建てたと常陸国風土記には記載されています。ほどなく現在の石岡市に国府が設置されたものと思われ、以降戦国時代まで石岡市は常陸国の中心地でした。この期間のうち、7世紀末頃から10世紀にかけての政務機関が石岡小学校のグラウンドから確認され、現在国の史跡に指定されています。これらの建物群は「国庁」と呼ばれ、都から来た国司が実際に政務をとっていました。今回の展示では発掘調査の成果から主に奈良・平安時代の国庁の様子をご紹介します。



焼き物でできた硯の脚の部分です。陸（おか）と呼ばれる平坦部は失われています。これに膠（にかわ）で固めた墨を磨り公文書を作成します。常陸国府跡出土のものは径が大きいことが特徴です。上司が決裁のためにこの硯を取り出すと、下級役人はさぞ緊張したことでしょう。

従来の研究により7世紀末から8世紀初頭のもものとされる軒丸瓦です。同時期の丸瓦・平瓦も出土していることから、瓦葺の建物の存在が想定されますが、数が圧倒的に少ないことから、大棟（屋根の最上部の平行な部分）のみに葺くなど部分的な使用と考えられます。



開館時間 午前 10 時～午後 4 時 30 分
休館日 毎週月曜日（祝日の場合は翌日）
交通 JR 常磐線石岡駅西口より徒歩約 12 分
駐車場あり
住所 石岡市総社 1-2-10 石岡小学校敷地内
電話 0299-23-2398

